

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第2号）について
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平年より低い。保毒虫率は近年低下傾向にある。

1 調査概要

- （1） 本年5月中旬に、麦主産地である玉名市、嘉島町、氷川町のそれぞれ3地点、合計9地点の小麦ほ場から採集したヒメトビウンカ（成虫および幼虫）について、イネ縞葉枯ウイルスの保毒状況を、簡易ELISA法を用いて調査した（H26以前は高比重ラテックス凝集反応法にて実施）。
- （2） 保毒虫率は、県平均0.4%で平年（4.2%）及び昨年（2.3%）より低く、過去10年間で最も低かった（表1、図1）。
- （3） 近年、県内の保毒虫率は低下傾向を示している（表1、図1）。

2 今後の留意点

保毒虫率が低かったことから、本年のイネ縞葉枯病の発生は少ないと予想される。しかし、以下の地域やほ場では発生に注意し、必要に応じてヒメトビウンカの防除を行う。

- ・ ヒメトビウンカ第一世代の増殖場所である麦類の栽培面積が広い地域（本種の密度が高まる可能性があるため）。
- ・ トビイロウンカ防除のため箱施用剤にフィプロニル粒剤を施用したほ場（本薬剤はヒメトビウンカに対して効果が低い）。

防除については以下の点に注意する。

- （1） 発病株を認めた場合は、伝染源になるのでできるだけ早めに抜き取る。
- （2） 最高分けつ期に感染すると不稔となり収量が低下するので、本田での発病やヒメトビウンカの発生が多い場合は防除を行う。なお、県内では、各種薬剤に抵抗性を獲得したヒメトビウンカの発生が確認されているので、薬剤の選定に注意する（平成27年3月4日付技術情報第17号 http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H26/yosatu/150304gi_jyutu.pdf）。

表1 ヒメトビウカのにネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定結果(平成28年6月)

No.	地点名	検定数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1	玉名市岱明町野口1	100	1	1.0
2	玉名市岱明町野口2	100	0	0.0
3	玉名市岱明町野口3	100	0	0.0
4	嘉島町下六嘉1	100	0	0.0
5	嘉島町下六嘉2	100	1	1.0
6	嘉島町下六嘉3	100	0	0.0
7	氷川町若洲1	100	1	1.0
8	氷川町若洲2	100	1	1.0
9	氷川町若洲3	100	0	0.0
合 計		900	4	0.4
昨年値(3地点の平均値、検定数各地点190頭)				2.3
平年値(過去10年の平均)				4.2

※本年は簡易ELISA法、平年値は簡易ELISA法(H27)と
高比重ラテックス凝集反応法(H18~H26)による検定結果をもとに算定

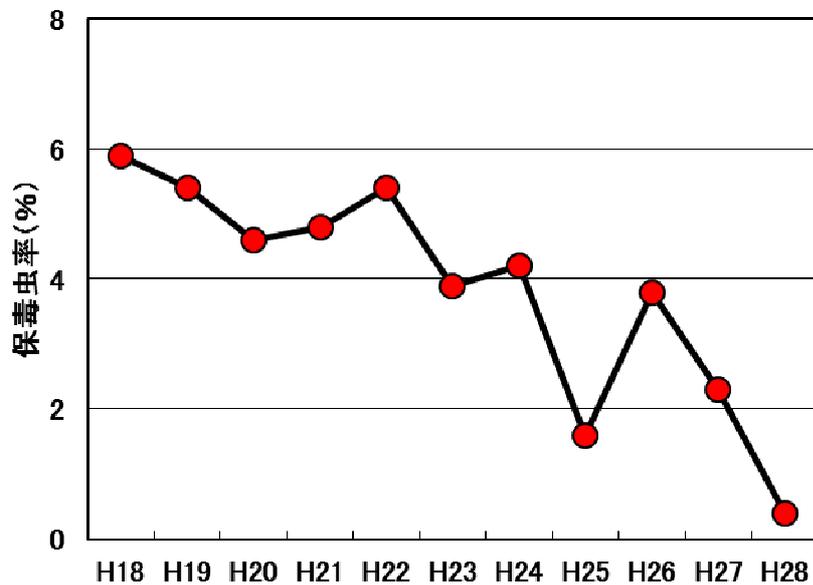


図1 イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係)
担当：加賀山・春山 TEL 096-248-6490